

演奏を通じた地域への貢献

地域のイベントなどの演奏に積極的に参加する桂中吹奏楽部。
そこは「音楽で人を感動させる」という吹奏楽の楽しみを知る場所でもある。



桂川町老人クラブ連合会 50 周年記念式典で演奏する桂中吹奏楽部。

聴いてくれている人の
心に響く音を届ける

4月26日。桂川町老人クラブ連合会50周年記念式典が、住民センターで開催された。参加した多くの会員で賑わう中、その舞台裏に、楽器を準備する桂中吹奏楽部のメンバーの姿があった。この日、式典に招かれた彼らは、特別に演奏を行うことになっていく。

先輩の卒業や新入生の加入を経て、19人の新体制となった桂中吹奏楽部の初めての公での演奏。特に一年生は、入部して一カ月も経っていない。

藤井先生が舞台裏で出番を待つ部員たちに檄を飛ばす。「どん帳が開いたら、まず遠くを見ること。そこに向かってまっすぐ音を出すイメージで演奏してください。それが、聴いてくれている人の心に届く音になります」

時代劇で使われた楽曲など、わかりやすく有名な曲を全部で6曲演奏する部員たち。アンコールでは童謡「ふるさと」を演奏し、会場の老人クラブ会員の方々と合唱した。会員の中には、合唱中に涙ぐむ方も。

演奏後、桂中吹奏楽部には、盛大な拍手が贈られた。なかなか鳴り止まない、本当に盛大な拍手だった。「よか

音楽が聞けて良かった」「中学生が立派な演奏するねえ」と口にする老人クラブ会員の方々。

演奏後、藤井先生は「生の楽器の音を聞く機会はなかなかない。体に、そして心に響く音楽の感動を、生徒たちが伝えることができたのではないだろうか」と部員たちを労った。

一年生の橋本嵐くんも「楽器でこんなに人を感動させることができるんだと感じました。早く僕もすっかり音を出せるようになって、先輩たちと一緒にみんなを感動させたい」と、初めての舞台演奏の喜びを笑顔で振り返る。

感謝を忘れずに
地域での積極的な演奏



桂中吹奏楽は、町内のイベントに積極的に参加し、演奏を行っている。毎年、商工まつり桂川や夏まつり桂川、古代の謎フェスティバル前夜祭などで、彼らの生き生きした演奏を